

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



上 備 分 教 会

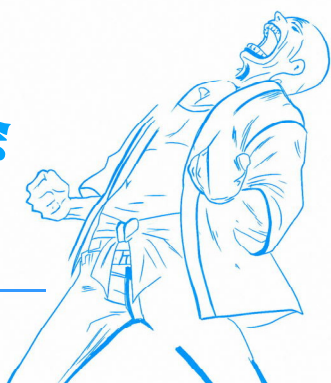
昭和52年6月26日 設立

立教189年11月23日(月)午前10時(9時受付)

天理教青年会笠岡分会

青年会長様御臨席総会

～親孝心を、生きる～



立教189年
7月号

おつとめ・式典
感話・抽選会(16時終了予定)

縦の伝道講習会 開催

6月月次祭後

少年会

去る6月21日、少年会笠岡団(森本忠善団長)は、少年会本部委員・杉本重瑠先生を講師に迎え、縦の伝道講習会を開催。役員・部内教会長・ようばく・信者多数が受講した。講話内容は次の通り。

子供たちと向き合う毎日の生活の中で、「信仰を受け継ぐ」ということの大切さを改めて教えていただいております。

私の家がお道につながったのは、高祖母がお道の信仰をもち、高祖父が重い目の病をお救いいただいたことが始まりです。

当時は、天理教を信仰することが大変難しい時代でしたが、何とか夫に救ってもらいたい一心で信仰を勧め、おぢばに帰ってお話を聞き、心を入れ替えて、見事に御守護をいただきました。そして、子供である曾祖父もまた目の病をいただきます。最初は信仰を嫌い、親の話にも耳を貸しませんでした。しかし、病が重くなり、ようやく

真剣に神様のお話を聞くようになり、不思議な御守護を頂戴しました。この2代に亘るおたすけが、私共の教会の元一日であります。

また、私が高校へ進学する前に父から、我家の信仰の歴史を聞かせてもらいました。「今のお前があるのは、御先祖が信仰を通ってくれたおかげである。」という話でした。その時は、十分に理解できませんでしたが、私の心の中に深く残りました。

その後、高校に上がり、初めて視力が落ち、眼鏡をかけるようになりました。その時、真つ先に思い浮かんだのが、信仰の元一日でした。ご先祖は目を救っていただいた。私は眼鏡をかけるだけで普通に生活している。この事を通して、「御恩を忘れたらいけないよ」と親神様がお知らせ下さっていると感じたのです。また最近、小学生の長男が学校の帰り道に転倒し、おでこを大きく切る出来事がありました。幸い病院で診てもらうと大事には至りませんでした。傷は目のすぐ上でした。あと少し場所が違えば、目を傷つけていたかもしれません。その時、信仰の元一日を思い出し、教組が手を引いて助けて下さった。我家のいんねんであ

る目のさわりを、大難を小難に救けていただいたのだと、心からお礼を申し上げました。

このように、信仰の元一日を知っているかどうかで、出来事の受け止め方は大きく変わってきます。だから親から子へ・子から孫へと信仰の喜びを伝えていくことが何より大切です。

縦の伝道とは、ただ教えを覚えてもらうことではありません。親が信仰して良かったという喜びを子供に伝え、その喜びをさらに次の世代へ受け継いでいくことです。

そのために創立されたのが少年会です。しかし、縦の伝道は少年会行事だけで成り立つものではありません。真柱様もお話し下さっているように、教会・家庭で過ごす時間、すべてが少年会活動であり、縦の伝道です。

子供は親の姿を本当によく見ています。子供は教えられたことよりも、見たことを覚えます。だからこそ、親自身が信仰者としてどんな姿を見せるかが大切だと思います。

それでは子供たちに、どのような姿を映していけばよいのでしょうか。私は日頃から、「ありがたい」「うれしい」という気持ちを子供の前で言葉にする

ことを心がけています。朝目が覚めて、今日も元気に起きられてありがたい。食事を頂く時には、美味しいね。と、何気ないことにも親神様への感謝を口にするように努めています。また、一緒にひのきしんをしたり、道の子の歌をうたったりしながら、少しずつ親神様への感謝の心を育んでほしいと願っています。こうした日々の積み重ねこそが、縦の伝道の基本だと思います。

もちろん、少年会活動も大切です。こどもおぢばがえりや教会での行事・地域の活動など、子供たちがお道に親しみ、信仰の喜びに触れる機会は数多くあります。私自身、中学生の時に参加した少年ひのきしん隊で大きな感化を受けました。

子供を育てることは、一朝一夕に結果が出るものではありません。しかし、種を蒔かなければ芽はできません。小さな積み重ねが10年・20年後の姿につながっていくのだと思います。

そして、子供を育てるのは親だけの役目ではありません。教会長夫妻・青年会・婦人会・学生会、教会につながるすべての方が、関わることであります。私自身を振り返ってみても、親だけでなく、多くの方に励まされ、お育てい

いただきました。だからこそ、今度は私たちが、次の世代へ信仰を伝えていく番ではないでしょうか。

今年もこどもおちばがえりが開催されます。是非、一人でも多くの子供達に声を掛け、おちばへ帰って頂きたいと思います。

真柱様は、「子供たちを将来立派なようぶくに育てることは簡単ではありません。しかし、その努力を怠れば道の将来に大きな影響を及ぼします。」とお話し下さいました。まさに縦の伝道は、お道の将来を築く大きな御用です。

私たちが今日まぐ一粒の種は、すぐに実を結ばないかもしれませんが。しかし、その種は必ず次の世代へ受け継がれ、お道を支える大きな力になっていくはずで。

どうか子供達が親神様への感謝の心を育み、将来立派なようぶくとしてお道を通ってくれる姿を楽しみに、それぞれの立場で縦の伝道に勤しみたいと思います。

本日は誠にありがとうございます。

(要約…副団長 藤井保人)

草刈り・剪定ひのきしん

実施

管理部

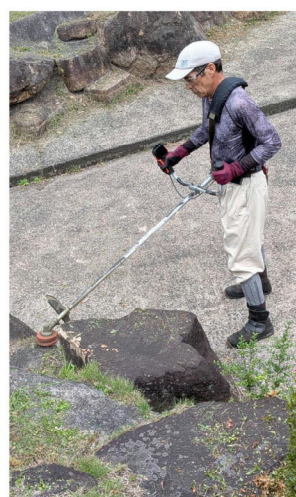
管理部(虫明立生部長)は6月19日午前9時から大教会の客殿、並びに食堂周辺の草刈り・剪定ひのきしんを9人で行った。当日は参道のつつじの剪定

も予定していたが、この日は30℃近い気温と湿度の高い蒸し暑さもあり、つつじの剪定は次回行う事にした。

当日は祭典前の恒例の餅つきが終わったからの参加者や、都合が悪く前日に単独で草刈りをして下さった方々など大変暑い中をひのきしんで汗を流して頂き本当にありがとうございます。

11月の青年会長様ご臨席総会を控え、すべてにおいてまだまだお迎え出来る状況にはなく大教会を挙げて真実の姿を見ていただける様つとめさせて頂きたいと思いますので、笠岡に繋がる皆さまにはどうぞお力添え下さいます様よろしくお願い致します。

(部長 虫明立生)



第6回「伏せ込み」実施 ひのきしん」実施

青年会

青年会長様御臨席総会に向けて毎月行っております伏せ込みひのきしん、6月は20日に笠岡大教会で開催させて頂きました。

9時集合の後、1階の正面玄関の清掃をさせて頂きました。

その後、当日は雨ということもあり、会長宅へ続く渡り廊下の窓拭きをさせて頂きました。

お昼からは、普段使わせて頂いている会室の掃除をさせて頂きました。青年会員5人の方と伏せ込み、種まきをさせて頂きました。大教会でのひ



月次祭準備中



玄関前の鳥のフンを掃除している様子

↑ お・ま・け

のきしんはやっぱり特別です。自分達の良いところ。例えば声をかけ合って明るく取り組める事が知れたり、逆にまだまだ未熟なところ。道具の使い方、かしまのかりものを意識した感謝の心を持つ事など、そういった部分を見させて頂いただけです。冒頭にも申しましたが、青年会では毎月伏せ込みひのきしんを行っています、飛び込み参加も大歓迎です！

教祖140年祭の年、そして、青年会長様御臨席総会へ向かうこの年に1人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

基本的には第1もしくは第2日曜日開催です(詳細は大教会ホームページでご案内しています)。

(委員長 瀬藤 大喜)



会長宅の渡り廊下窓掃除



心構えについての説明

青年会(瀬藤大喜委員長は、去る6月20日、御臨席総会へ向けた「決起の日」を開催しました。

当日は伏せこみひのきしんをつとめさせて頂いた後、午後4時頃より神殿で第1回おつとめ練習会を開催しました。

初回となる今回は、大教会長様よりおつとめに臨む心の持ち方について、また岡崎真一先生より、おつとめに関する細やかな作法や注意点、笠岡大教会としての取り決めなどをご教示いただきました。

その後は実際におつとめまなびを行

御臨席総会
決起の日

青年会



具体的なつとめ方について

い、先生方から丁寧にご指導をいただきました。質疑応答では、普段から抱いていたおつとめに関する疑問について活発な質問が交わされ、熱意あふれる充実した学びの時間となりました。タづとめ後には青年会室で「決起の集い」を開催し、高橋伸実先生よりオンラインでお話を聞かせていただきました。

「人生は行き当たりばつちり」というお言葉のもと、今、自分が置かれている環境で精いっぱいつとめることの大切さを教えていただき、勇気とやる気をいただくひとときとなりました。

その後は焼肉を囲みながら懇親会を行い、御臨席総会に向けての思いや、その先の一人ひとりが挑戦してみたいことなどをざつくばらんに語り合いました。

御臨席総会までいよいよ150日をきりました。

昨日は梅雨の大雨の中、6月の月次祭が無事につとめられました。雨に対して「服や靴が濡れる」「渋滞する」とネガティブに捉えると心に不足が生じがちですが、「恵みの雨」という言

 **御臨席総会まで、**
あと150日：6月26日



高橋伸実先生のオンライン講話

した。参加者同士の距離も一層深まり、大変有意義な時間となりました。

当日は、全体で15人の方にご参加いただきました。ご参加、お声かけいただき誠にありがとうございました。

(委員長 瀬藤 大喜)

葉を使えば明るい気分になります。

6月の祭典講話にて、春野享本部員先生より「神様は常にいっぱいの御守護・お恵みを与えてくださっている。それを受け取る器を広げるために必要なのは『真実の心と行い』を『諦めず』に何度も繰り返すこと』である」というお話をいただきました。

さて、御臨席総会に向けて、6月末には各係のメンバーを発表させていただきます。来る7月20日には係員全体会議を開催いたします。

今、改めて思うのは大教会長様をはじめ多くの先生方の親心、青年会委員さん方のご協力に対する大きな感謝の心です。

本当にありがとうございます。

今回の御臨席総会のテーマは「親孝心、生きる」です。

親孝心とは何か。一言で言えば、親に喜んでいただく行いや心です。さらにその先を見据えるならば、それはおやさまにお喜びいただく行いや心に他なりません。

すなわち、陽気ぐらしへ向かう「真実の心と行い」を積み重ねることです。

春野先生のお言葉通り、これを「諦めず」に何度も繰り返すことが、神様の

お恵みをいただく器を広げ、ひいては自分たちが救われていく道に繋がります。

その上で、笠岡分会としての親孝心を考えたとき、親元であるおぢばへ一人でも多くの青年会員さんと帰らせていただくこそが、親神様・おやさまに喜んでいただける最大の行いであると思いを至しました。

御臨席総会の約1か月前にあたる10月27日(火)10時より、本部中庭で「第100回天理教青年会総会」がございします。

今年は平日の開催となりますが、何卒お休みを調整いただき、万象繰り合わせの上、ご参集くださいますようお願い申し上げます。なお、前日の26日には様々なイベントや前夜祭も予定されています。

笠岡分会といたしましては、動員50人を心定めさせていただきます。

(過去実績、99回23人、98回9人、97回17人)

これから夏の子どもおぢばがえりも控えております。私も都度お声かけさせて頂きますので、皆様にも100回総会に向けてのご参加、お声かけにご尽力いただきます様、宜しくお願い致します。

(委員長 瀬藤 大喜)

こかん様に続く会開催

女子青年

6月28日にこかん様に続く会を開催しました。

支部長様より、「おつとめ」と「女子青年活動」の大切さについてお話をいただきました。

おつとめはこの世のたすかりとご守護の源であり、感謝の心と人のたすかりを願う真実の心で勤めることの大切さを学ばせていただきました。

振り返りの時間には「意識的に教会に足を運びたい」「人のたすかりを願う心を大切にしたい」などといった意見が聞かれ、それぞれが今後の歩みについて考える機会となりました。

振り返りのあとはお楽しみゲームをして親睦を深め、初めて参加してくれた子達とも打ち解けられ、とても和やかな時間でした。

昼食には担当の奥様がBQや手作りのスイーツ、お下がりのフルーツをたくさん用意してくださいました。愛情たっぷりのお昼ご飯にほっこりした気持ちになりました！

参加人数は女子青年16人、担当者12人で賑やかに行事を行うことができました。

11月1日(日)には教会本部にて、女子青年大会が開催されます。笠岡女子青年として10月31日(土)から1泊2日でバス団参を組ませていただきます。たくさんのご参加お待ちしております！
(委員長 山野 哉実)



女子青年大会に向け
再会を誓う参加者たち



担当者が代読する支部長の
思いを熱心に書き取る参加者



お楽しみゲーム



振り返り



愛情たっぷりのお昼ご飯にほっこりする参加者たち



第7回「伏せ込み ひのきしん」実施

青年会

7月5日、青年会(瀬藤大喜委員長)は伏せ込みひのきしん団参として笠岡詰所でひのきしんさせて頂きました。参加者は3人でした。5時に笠岡を出発し9時から15時半まで1日ひのきしんさせて頂きました。

雨は降ったり止んだりといにくの天候でありましたので詰所内の毛布を全て押し入れにしまい、代わりに洗濯されたタオルケットを全部屋に間引いていく、詰所の衣替えの様な作業をさせて頂きました。



詰所の衣替え



全部屋の毛布をしまう



この後もまだまだ入ります、汗



雨の中でできるひのきしんに取り組む

にいただきました。少人数ではありませんでしたが、持てる力いっぱい取り組んでくださいました。ひのきしん後に奥様から頂いた手作りプリンに舌鼓を打ちまして、最後に主任先生より「おやさまは『この屋敷にかえってくるものは喜ばさずには1人も帰されん。』とおっしゃいました、ここ詰所はそういった帰られる方

に喜んでいただける様もてなす場所でもあります。その一端を今日おつとめいただいた事はおやさまも喜んでくださっています。」と疲れも吹き飛ばされたいお言葉をいただきました。また、ごもおちばがえりに向けて、今回頂いたお言葉を胸に通らせていただきますと思います。

(委員長 瀬藤 大喜)

修養科を終えて

金浦分教会 樋上 智 晴

3ヶ月間、教養掛の先生をはじめ、詰所の皆様、笠岡大教会の関係者の皆様には本当にお世話になりました。

長年勤めてきた職場を退職したのを機に、これまで心身ともに健康に過ごさせて頂いたお礼として修養科を志願しました。

これまでは自教会の祭典に参拝する程度であり、天理教の各種行事にはほとんど参加して来ませんでした。今回、笠岡大教会の多くの皆様と繋がりを持てたことは本当に貴重な機会でした。これを節目として、これからは積極的に各種行事へ参加したいと思っています。

また、今回詰所の中庭へサツマイモ等の苗を複数植えさせて頂きました。定期的に月次祭等で詰所へ帰り、大切に手入れをしたいと思っています。秋には子供たちと芋掘りを行い、初物は本部へお供えしたいと思っています。

最後に、1018期として一緒に修



養科へ来た笠岡大教会所属の5人の仲間、間に改めて感謝申し上げます。引き続き今後ともよろしく願います。

修養科生活をふりかえり

葦陽分教会 村上 久志

私は38年前の同じ時期に修養科に出ました。

この度、修養科に出るきっかけは、昨年、定年退職を迎え再雇用で仕事をしている中で、ふと以前友人に「退職したら修養科に行ったら」と冗談で言われたのを思い出したというものでした。なぜか気になり、日増しにもう一度行きたいという気持ちが大きくなったため、家族に打ち明けたところ、最初は反対されましたが、最後は快く送り出してくれました。友人が天理に行く便があつたので、連れて行ってもらえるようお願いして、少し早い23日におちばに帰らせていただきました。翌日、軽い気持ちで事務所へ行き「お手伝いすることありますか」と主任先生にたずねたところ、布団の取り込みのひのきしんをさせていただくことになりました。先生について作業をしながら、おひとりでの作業をもくもくと

している姿に、私はとても感動しました。

修養科生活が始まりと共に、この布団との格闘が始まりました。毛布、敷布団、掛布団を1階の部屋から2階の会議室、講堂に持って行き、一時的に保管したり干したりする作業を修養科が休みの時は、修養科生と教養の先生、主任先生とで、修養科生がいない時は教養の先生たちがされていました。かなりの重労働であると身をもって感じ、今まで当たり前に使っていた布団のありがたさが身に沁みました。台所のひのきしんでは、お茶の担当に成りました、簡単と思っていたけれど、認識の甘さで大きな釜に火をつける時、軽いやけどをすることもありました。が、何とかやり切りました。ひのきしん中に周りを良く見ると、汚れがあることに気づき、これを一つずつ磨いて行きました。気になったら、すぐ行動にうつす性分のため、勝手に掃除をする私を、黙って温かく見守ってください。さつたきよの奥様には感謝でいっぱい。おかげさまで、無事に3か月の修養科生活を送ることができました。

修養科では、多くの若者にまじって、クラス担任、副担任の先生から教祖ひ

ながたについて学ばせていただきました。一昨年出直した自教会の会長様が教会の祭典で、講社祭りでと、折に触れ何年も言っておられたのを思い出しました。お礼を言おうにも、もう居ません。

会長様は我が家の理の親である前に、私たちの父親の様な存在で我が家の事を一緒に悩み、喜び、多くの事を教えてくれました。そんな会長様への感謝の気持ちを込めて3か月過ぎることが出来ました。

最後に3か月お世話、指導をしてくださいました6人の先生方、主任先生、奥様、本当にありがとうございました。

変わった自分、変われなかった

自分、良いところ悪いところ。

大江橋分教会 村川 達朗

自分は修養科に来て良かったと思います。それは明るくなれたから。来る前の自分はとても暗かったと思います。別に悪いことではないけど明るいところ、周りの話が楽しくなる、考えが前向きになる、今後生きていく中で必須のことだと思えます。なのでそれを学べたこと、変わったことがとても良

かったところです。

変われなかったところはどうしても朝夕のおつとめをめんどくさいと思ってしまうところです。毎日する必要があるのかと疑ってしまいます。それでも言い訳を言わず頑張ったと思います。

良いところは前向きに考えられることが増えたこと。そのおかげであまりどうでもいいことや、キツパリと考えるを交換できるようになった。

悪いところはそれでもやはり迷いがあるところ。

変わった自分はプラスになった。変われなかった自分は前向きになるチャンス。良いところはそのまま良いこと。悪いところは考え方が増える。色々と考え生活していった3ヶ月、とても学ぶことが多かった。今後はなんでもプラスに考え行動できるよう、これから変わり続けて行こうと思います。

学び多き三ヶ月

上父分教会 岡 佑一郎

おちばでの3ヶ月で、色々な人と出会わせていただき、たくさんのお話を学ばせていただきました。授業とかたちで教義に触れ、改めて天理教について考え、自分に何ができるだろうか、また、これまでの生活についても思い返す良い機会となりました。特におさづけは、今まで自分は積極的に取り次げていなかったもので、これからは身近なところから、少しずつでも始めていきたいです。

この修養科で得た、経験や教友を大切にし、これから歩んでいきたいと思っています。貴重な機会をいただき、ありがとうございます。

修養科を振り返って

鶴山分教会 難 波 秀 子

3ヶ月お世話になりました。修養科に志願した理由は家での会話が全く無く、認知症の恐れが感じられた為、多くの人がいる修養科でコミュニケーションを取りたいと思います。クラスの若い女性2人が四六時中一緒

に手取り足取りお世話していただきました。私にとって大変有意義な修養科生活でした。また機会があれば修養科に志願したいと思います。教養掛の先生方には大変お世話になり感謝しております。今後は笠岡大教会の活動にも参加したいと思います

気付きと感謝

大江橋分教会 村 川 久 恵

この度長男と一緒に修養科へ入らせて頂きました。私は3年前に一回行きました。

2回目でしたがいろんな不安でいっぱいでした。

集団生活に息子は大丈夫なのか?と思いましたが、教養係の先生方、1018期の笠岡の皆さん、クラスの皆さんのおかげで会話や笑顔が出るようになりました。

改めて親神様・教祖の教えを学び直し、気づかせて頂く事が出来ました。引き寄せて頂き、救って頂いた事に感謝し、御恩を忘れずに通らせていただきます。

ありがとうございます。

末の弟のまなざし

13

▼石楠花・玄関の雪・湯原露天風呂、出直しの時

石楠花を僕が初めて見た、というより石楠花に出会ったのは、道友社に居た頃、他の宗教教団の教えの求道の姿を見たいと思って、当時「大和タイムス」の企画で大峰奥駈修行の案内が出ていたのに応募して、前鬼まで参加者と歩いた時、山上ヶ岳から釈迦ヶ岳への道の藪漕ぎのなかで、一輪清楚に天に向かって伸び咲いているのをみた、こんな處に花が咲いている! 新鮮な驚きであった。豊明兄の玄関横の石楠花で、兄もこの花が好きだったのか、と思った。由志園には、あちこちに咲いていたので、兄はひよつとして、ここで苗木を求めて帰ったのかなと門脇君と話した。兄は、日本神話の研究で博士号を取っている関係で、度々松江にきては、出雲大社、稲佐の浜を訪れている。一教先生とも、気持ちに通い合っていたのではないかと思う。

ブルーミントンの兄の家には、最初、

1人で行ったと思う。シカゴからインディアナポリス、そこから小さな10人乗りくらいのプロペラ機で入って行ったかな、僕は山が好きならには、狭い處とか高い處は苦手です。随分汗をかいたように覚えている。後ろの空間には牛だか、犬だか、一緒に乗っていたように記憶している。家は大学の傍、周りは広大な大豆畑が広がっていた。割合寒い處で、朝起きて大学に行くように思ったら、玄関に雪が吹き込んで山のように積もっていたという話も聞いた。ドアと床のほんの小さな隙間から風が運ぶらしい、雪質は小粒、砂のよう、さらさら。そういう日は、家の外は積んでいるのだが、家の前で人が滑って転んで怪我したら、その家の責任という事で、冬は雪かきが大変だったらしい。

ナッシュビル、音楽の町にも連れて行ってくれたように思う。モンロウ湖が近くにあつて観光スポットだったけれど、丁度ウェスチング社のPCB廃水問題で釣った魚が食べられない事態になっていったように記憶している。勿論、インディアナ大学にも案内してくれた。温泉が好きで、笠岡に帰って来た時には、よく皆部の河原さんと湯原

の露天風呂にでかけていた。あるとき、アメリカから帰って来た時、右足が不自由そうにしていたので、どうしたのか聞くと、庭でスコップを使っている膝が故障して、歩くのが辛い、トイレで足が曲がらない、という事だった。偶々、湯原の露天風呂に入っているとき、整体士の人がいて、石の上に座ってアツというまに、直してくれたとの事。四国の人らしく、兄は運のいい人なんだなと思った。

清子姉は、無口な人だったが、僕はここで、西洋皿1枚におかずやご飯をとって食べる方を学ばせて頂いた。大教会で、今でも役だっている。

さて、古い資料からこの兄の出直しの事から、書いてみたい。

平成9年4月16日の「かさおか」誌に、豊明兄を偲んでと題して、私が一文を残している。

「1ヶ月程前の事が、もう1年も前の事のように思える昨今である。3月6日の事だったか、陶山の教会で昼の神殿掃除をしている時に電話が鳴った。電話に出ると岸本はま子義姉からで、『豊明さんが亡くなったよ、向ここの病院で…』という連絡だった。

すぐ大教会に連絡して、上原澄雄兄と志郎君が現地へ行つて遷霊・鎮霊をしてくれる事になった。部内への連絡の指示、遷霊・鎮霊詞の作成、現地での起こり得べき種々の事柄への対応を澄雄兄・志郎君と電話で繰り返し行い、また妻・順子にも急遽、その日の夕方、清子義姉に電話をかけさせた。あらゆる事を考慮して、遷霊祭はニューヨークセンターから誰かに出向いてもらうという案をやめて、澄雄兄・志郎君の2人で執り行うという事で、教服・草履・覆面・骨壺。御霊代など持ってゆくものをリストアップして、2人が関西空港を出たのは、3月7日夕刻だったと思う。

現地の遷霊祭には2人が遺体安置所まで出向き、鎮霊祭は豊明兄の自宅で、列席者は、上原清子義姉、上原治氏、岸本敏明氏、上原道江義姉、上原聡君らであった旨、3月20日の大教会役員会議で報告があった。神霊は今、ブルーミントンの上原宅に安置してある(4月7日現在)。4月27日日本から小生・順子が出向いて、50日祭を執り行い、神霊の供をして月末までに大教会に帰って来る予定である。

豊明兄と最後に話したのは、去年の、

兄が米国へ帰る直前だった。「従いて来てくれるか？」と冗談めかして力なく言ったその雰囲気、ふと前会長の姿を見た。「パスポートがないんだワ。澄雄兄だったらパスポートがあるから従いて行けるヨ」それが最後になった。

思い出を拾うと。兄はよく勉強していたように思う。詰所会長宅の玄関横の3畳間に寝起きして京都大学に通っていたのだと思うが、私はまだ幼い頃で、ときたま父母に連れられておちばへ帰った時などしか、あまり顔を見る事はなかったが、父母から感じる雰囲気、そう思っていた。もう米国のサンカリフォルニア大学への留学が決まっていた、その準備に忙しかった頃の事なのかも思う。狭い室に、1枚の絵がかかっていた。後に、それがベーターベンの顔とわかったのだが…。私には、その音楽家の気難しい顔を通して、後に伝記を読んで知った苦難の生涯を思つて、いつもこの兄には「努力」という言葉を重ねて見るようになった。

兄弟の中で、2人が同じ血液型と知つて、親近感を持った。努力の人であるが、何事もきつちりとやっているようで、どこかふわりと抜けた処が

あたりする。冗談を言いながら、その裏に繊細な感情があったり、50歳代に入った自分を振り返つて、血液方が似ているから、兄に似てきたのかなと思ったりする。

健康には人一倍注意する人であった。ブルーミントンに2週間ばかりお邪魔した時など、度々歯の話をした。また勧められて土産にその時、ヨーグルト・メーカーを購入してきた。兄はそのヨーグルト・メーカーで納豆を作っていると聞いてびっくりした。インデアナは大豆の産地である。豊明流のにんにくの醤油漬けも、直々に伝授してもらい、今も時々作る。陶山の信者には、好評で、分けてあげている。この醤油漬けを長く置くと、醤油がなくなつて、真っ黒のにんにくがでかあがる。ふとした事で出来上がってしまったのだが、兄には賞味してもらえなかった。

天理大学卒業の時、インデアナ大学への留学の話があつて、兄には多大な骨折りをかけてしまったが、計画が挫折してしまった。私は、その後、道友社、布教の家、大教会住み込み、陶山分教会長と道をたどつたが、今もって、学問の道の厳しき、常に大きい視野を

もって現実を考えていく態度などは、この兄から教えられたと思っている。それは、今も私の日々の生活の中にある。

いつも考える。末の弟の私の前には、8歳の人生がひながたとして在る。その8歳を眺めながら、私自身の人生を歩んできた。今、最大の人生の師を失って、私は少しボンヤリしている。この兄について、私の心の整理を終える事が、いつの事になるのか、ちよつと分からない。

「かさおか誌第36巻第4号」から。

この文章は、ブルーミントンで50日祭を終えて帰ってきて書いた。その後、岸本、祥雄、眞雄、澄雄と向こうへ送って感無量である。立教189年から、今年立教189年、30年で、何かあった時にグチを言う兄は全部向こうへ行ってしまった。このあと、この兄の50日祭詞を掲載したい。向こうの病院の都合で、葬式をしていないので。

(訂正…前12話で「牡丹と芍薬、石楠花が同じ種類と知って」と書いたが、牡丹と芍薬はボタン科、石楠花はつじ科。思い違いでした。)

大教会だより

◎第一〇一八期修養科

自 立教189年4月1日
至 立教189年6月27日

*教 養 掛(主任、副主任)

一ヶ月目 ⑤横 山 逸 郎
(大教会役員・東城分教会長)

二ヶ月目 ⑤岡 崎 治 喜
(坪生分教会長)

三ヶ月目 ⑤山 野 弘 実
(大教会役員・弥高山分教会長)

副 貞 清 知 実
(三郡分教会長)

副 渡 邊 泰 造
(品治分教会長)

*修 了 者

金 浦 樋 上 智 晴
葦 陽 村 上 久 史
大江橋 村 川 達 朗
上 父 岡 祐 一 郎
鶴 山 難 波 秀 子

※訂正

本年6月21日発行の『かさおか 第65巻第6号』8ページ「試案 天理

教笠岡大教会史」の冒頭に「①昭和四十一年(立教百二十九年・1966年)」、②昭和四十九年(立教百三十七年・1974年)、③教祖九十年祭三年千日第二年目、④しかも、年頭会議の席上、大教会長様は、」とありますが、①は不要な行、②・③は本年5月21日発行の『かさおか 第65巻第5号』6ページ「試案 天理教笠岡大教会史」の冒頭と同じ年次の記事として、末尾の「以上であります。」に続く内容が④であるという意味で、②・③も不要です。

訃 報

松本幹則さん

錦洋分教会長
6月22日出直されました。
享年 76才

よりみち

今年の夏も全国的に平年を上回る厳しい暑さが予想されます。体調管理には、充分気を付けたいですね。

実は、私は最近 体調の変化を感じています。好きだったアルコールが飲めなくなっただけです。殆ど毎晩何かしら戴いていましたが、飲む気がしなくなりました。これは身体にどこか異常があるのではないかと、病院で診てもらいましたが、特に心配をする処はなく、加齢や体調不良による身体的な変化、ストレスや自律神経の乱れなどが原因かもしれないと言われました。

これからビールが美味しい季節です。また飲みたい気もしますが、いや! こころは、アルコールは少し休憩して「アルコール」ではなく「歩こう! する?」!! (寒いダジャレで涼しさを感じて頂けたでしょうか) こどもおちばがえりのパンフレットを持って歩かせて頂こうと思っています。

夏の笑顔キラリ!! たくさんの子供たちの笑顔がおちばに溢れますように。私も夏に負けない身体作りと理作りにつとめたいと思う今日この頃です。(は)

六
月
月
次
祭
祭
文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には子供かわいい一条の親心から 木々や花などの植物や様々な生き物に必要な潤いとなる梅雨の季節をお与え下さると共に「とのよふな事をするのも月日にわたすけたいとの一ちよはかりで」と日々の出来事を通して陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有り難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げると共に 少しでも親心にお応えしたいと届かぬながらもたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております その中にも今日の吉日は理のお許しを戴いた月に一度の御祭り日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝とたすけ心一杯に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日のを楽しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げます 状態をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年もはや半年を過ぎようとしており来月からは「こどもおちばがえり」が開催されます。教祖年祭の年の目的を持ったおちばがえりとして一人でも多くのこども達と一緒におちばに帰らせて頂きおちばの大切さ有り難さを感じて頂きたいと存じます。

また本日は杉本重瑠先生をお招きして「縦の伝道講習会」を開催致します
こどもおちばがえりを目前に控えたこの時旬に お聞かせ頂くお話をしつか
りと胸に治めて 次代の道の後継者の育成の上に努め励ませて頂く所存でござ
います

何卒親神様には 親を信じ親に凭れてたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取りくださいまして お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く建て替わりますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十九年 六月月次祭 祭典役割割表													
祭主		大教会長様		扨者		今川昌彦		浅野明教		講話		縦の伝道講習会	
役割		区分		座りづとめ		前半		後半		八月講話		田林久嗣	
地方		上原志郎		門脇元教		佐藤道孝		山田敏教		佐藤真孝		中島誠治	
おつとめてをどり		前会長様		中村道徳		山野弘実		虫明立生		門脇加津		吉岡八恵	
		前奥様		武内正美		室悦子		上原千枝子		内海史郎		赤木素志	
		杉原善朗		今川昌彦		高木昭祥		谷内秀自		中村剛史		岡崎豊子	
		吉岡壽		岡田温誠		中村剛史		岡崎豊子		横山小智榮		三島照美	
		中村義太郎		三代温生		岡崎豊子		内海安子		田中つかさ		高木孝子	
		岡崎豊子		内海安子		田中つかさ		高木孝子		中村初美		三島照美	
		門脇加津		田中つかさ		高木孝子		中村初美		三島照美		胡弓	

試案 天理教笠岡大教会史

昭和五十二年(立教百四十年・1977年)

二月二十六日 照陽分教会建築模様替及神殿並附属建物増改築

鎮座祭…五月十二日

奉告祭…五月十三日

二月二十六日 照陽分教会遷座祭日(三月三日)

二月二十六日 輝華分教会二代會長箕成一夫任命(初代会長箕成勘次郎昭和五十一年十一月二十五日出直)

二月二十六日 西伯分教会神殿建築及附属建物増築

鎮座祭…昭和五十三年五月四日

奉告祭…五月五日

三月二十一日 大教会新機構発表

常詔 淺野明男 岡本久則 岡崎幸逸 岸本敏明 武内 清

神事 部長・岡崎幸逸 次長・今川昌弘 宮本友二 中島宇一 淺野和

芳 岡崎輝夫 平井正雄 飯尾保人 岡本久善 内海 柱 中村

剛 大平太郎 田林志計實

庶務 部長・藤井憲男 次長・虫明昌平 佐藤道孝 森本忠平 谷内伸

自 岡本豊明 宮本泰徳 秀平善敬 開地 進 高島直道

会計 部長・岡本久則 次長・高田通昭 武内 清(袋)

国内布教 部長・武内 清 次長・谷内信美 杉原正夫 中村英夫 中

村 剛 原田義徳 竹本勘市 吉岡智三 笹尾正治 三代正道

海外伝道 部長・岸本敏明 次長・田中一之 上原豊明 上原眞雄 原

田義徳 鳥越祥典 宮本泰徳 吉岡孝彦 高木昭祥 三代温生

史料 部長・門脇誠教 次長・上原繁道 岡崎眞澄 内海 柱 岡崎和

夫 三月二十一日 母屋ふしん常任委員任命 常任委員長 大教会長

管理 部長・岡崎眞琴 次長・飯尾保人 河原節喜 三島材二 平井正

雄 杉原正夫 三島克巳 渡邊定夫 橋本正之

詰所 部長・今川昌夫 中村邦義 岡崎和夫

會長室 主任・高田通昭 内海 柱

教会事情審議室 主任・岸本敏明 武内 清 高田通昭 谷内信美 虫

明昌平

輸送掛 主任・虫明昌平 次長・岡本久善 三島克巳 吉岡壽 森本忠

平 岡本豊明

三阪道輝 掛谷和由 藤本 章 佐藤主計 豊田道人 三島陽祐 高橋

久光 下田輝夫

かさおか編集掛 主任・上原繁道 内海 柱 岡崎和夫

補導掛 主任・谷内信美 次長・岡崎輝夫 藤井憲男 淺野和芳 高田

通昭 虫明昌平 田中一之 門脇誠教 岡崎眞琴 今川昌弘 岡

本久善 佐藤道孝 杉原正夫 河原節喜 中村英夫 田林志計實

諸会議

理事会 岡本久則

世話人会 藤井憲男

部長会 岸本敏明

役員直属教会長布教所長會議 武内 清

直属教会長会 岡崎眞琴

大教会史編纂委員會 岸本敏明

詰所運営委員會 今川昌夫

婦人会 支部長・上原せい子

青年会 委員長・佐藤道孝

少年会 団長・吉岡 壽

副委員長 石本敏明 武内 清
 会計担当 岡本久則 高田通昭
 記録担当 今川昌夫 吉岡 壽
 委員 田中一之 門脇誠教 杉原正夫

三月二十三日 教会長配偶者対象に布教実修会開催(二四日まで 四九人)

四月一日 第二専修科発足

四月十七日 「ムック天理」発売

四月二十六日 照陽分教会模様替

四月二十六日 出雲分教会六代会長高島京子任命(五代会長高島國雄 昭和五十

二年三月四日出直)

就任奉告祭…五月十日

四月二十八日 教会長配偶者対象に布教実修会開催(二九日まで)

五月二十日 真柱様 久松分教会に御巡教

五月二十六日 甕連分教会神殿建築

鎮座祭…昭和五十四年十一月九日

奉告祭…昭和五十四年十一月十日

五月二十六日 福勇分教会三代会長鳥井久昭任命(二代会長鳥井フユノ辞任)

就任奉告祭…六月十九日

五月二十六日 西村分教会五代会長藤本英治任命(四代会会長藤本キヨミ辞任)

就任奉告祭…六月十二日

五月二十六日 亀田山分教会附属建物増築

五月二十六日 神邊分教会附属建物増築

五月二十八日 大教会准承事・上下分教会二代会長山野新之介出直(八二歳)

六月四日 布教所長対象に布教実修会(五日まで)

六月二十六日 昇山分教会設立(初代会長西だ(?)順二任命)

鎮座祭…七月二日

奉告祭…七月三日

設立場所…広島県世羅郡甲山町大字西上原九百八番地の四

六月二十六日 白石島分教会設立(初代会長天野繁一任命)

鎮座祭…七月三日

奉告祭…七月四日

設立場所…岡山県笠岡市白石島三百七十五番地

六月二十六日 甕之郷分教会設立(初代会長織田留次郎任命)

鎮座祭…七月七日

奉告祭…七月八日

設立場所…岡山県倉敷市玉島乙島六千八百四十番地の一

六月二十六日 柏島分教会設立(初代会長宮原満寿子任命)

鎮座祭…七月五日

奉告祭…七月六日

設立場所…岡山県倉敷市玉島柏島五千四百二十九番地の二

六月二十六日 上備分教会設立(初代会長田渕義男任命)

鎮座祭…七月六日

奉告祭…七月七日

設立場所…広島県世羅郡甲山町大字青近一千五百九番地の六

六月二十六日 安那海分教会恒例祭日変更(毎月六日―十一日)

六月二十六日 高梁川分教会恒例祭日変更(毎月十一日―十五日)

六月二十六日 寄島分教会恒例祭日変更(毎月五日―十三日)

六月二十六日 大辻分教会五代会長井実吉任命(四代会会長津田チカヨ辞任)

就任奉告祭…八月二十八日

六月二十八日 大教会准承事・弥高山分教会四代会会長平井正雄出直(七二歳)

七月二日 布教所長対象に布教実修会(三日まで)

七月二十六日 善実分教会設立(初代会長宇野キクエ任命)

鎮座祭…八月十三日

奉告祭…八月十四日

設立場所…岡山県倉敷市玉島二丁目十三番五号

七月二十六日 玉島分教会恒例祭日変更(毎月十六日―二十日)

七月二十六日 甕港分教会恒例祭日変更(毎月十三日―十七日)
七月二十六日 善備分教会設立(初代会長辻本小治郎任命)

鎮座祭…八月六日

奉告祭…八月七日

設立場所…岡山県倉敷市玉島一丁目十二番八号

七月二十六日 善和分教会恒例祭日変更(毎月十一日―十三日)

八月六日 第十九回夏季英語講習会開催(七日まで 一一〇人参加)

八月二十二日 こかん様につづく会開催(二三日まで 八〇人参加)

八月二十六日 玉島分教会 玉島大教会に陞級 陞級奉告祭 十一月一日

八月二十六日 大江橋分教会臨時祭典変更

鎮座祭…十二月三日

奉告祭…十二月四日

九月十一日 台湾伝道庁神殿落成奉告祭

九月 部内教会単位での布教実修会始まる

九月二十四日 婦人会委員長研修会開催(二十五日まで 一三〇人余)

十月二十日 ふしん常任委員会(母屋ふしん この年三回開く)

十月二十一日 大教会役員任命

准承事…笹尾孝夫 三代 昌 豊田道人 吉岡智三

十月二十一日 大教会史編纂常任委員会(この年五回開く)

十月二十六日 海松ヶ岡分教会四代会長森本忠平任命(三代会長森本浪江辞任)

就任奉告祭 十一月十六日

十月二十六日 島根分教会附属建物増改築

十月三十日 十月度布教実修会修了

十一月一日 大教会長夫妻 玉島大教会陞級並神殿移転建築落成奉告祭に臨席

十一月九日 大教会准承事小寺正一出直(七七歳)

十一月十四日 二代真柱様十年祭

十一月二十日 ふしん委員会

十一月二十二日 おてふり研修会開催(四〇人受講)

十一月二十六日 福山分教会建築模様替及附属建物増築

十一月二十六日 福備分教会附属建物増築

十一月二十六日 坪生分教会四代会長掛谷富子任命(三代会長掛谷亘 昭和五十二年七月十四日出直)

十一月二十九日 青年会 女子青年会合同総会

十一月三十日 立教百四十年布教実修会終了

十二月四日 少年会主催日曜こどもおちばがえり終了

十二月二十日 ふしん委員会

この年は玉島分教会が大教会に陞級した。笠岡にとっては初めての分離大教会である。全教的な行事であるが、大教会でも教会長配偶者、布教所長などを対象に次々と布教実修会が開催、九月からは全部内教会を対象に布教推進要員を派遣しての布教実修会開催が始まった。こうして教祖百年祭に向かって布教力の涵養が行われていくこととなる。

この年の大教会年間統計 初席者三百九十九人 おさづけの理拝戴者三百二十三人 修養科修了者百四十五人 教人登録七十七人 教人総数一千六百九十人 よぶぼく総数

昭和五十三年(立教百四十一年・1978年)

一月七日 真柱様から母屋ふしんお許し戴き第八十三母屋と命名頂く

一月八日 大教会史編纂常任委員会(この年二十回開く)

一月十九日 ふしん常任委員会(この年十六回開く)

一月二十七日 おやさとかた西左第五棟着工

二月十九日 井筒ふみ子芦津大教会奥様を迎え女子青年大会挙行(二一〇人参加)

二月二十一日 小鼓研修会(四一人参加)

二月二十六日 弥高山分教会五代会長平井年任命(四代会長平井正雄出直)

就任奉告祭…五月一三日

二月二十六日 御野分教会神殿及附属建物建築

遷座祭…四月二十九日

鎮座祭…昭和五十五年五月三日

奉告祭…昭和五十五年五月四日

二月二十七日 布教推進要員の本部での強化実修会(二八日まで 七人参加)

三月十一日 小鼓研修会(二三人参加)

三月二十六日 真府分教会四代会長高田弘之任命(三代会長高田準一辞任)

就任奉告祭…四月九日

三月二十六日 吉舎分教会移転建築

旧所在地…広島県双三郡吉舎町濃さ百四十九番地の四

新所在地…広島県双三郡吉舎町大字海田原二百二十二番地の一

鎮座祭…十一月四日

奉告祭…十一月五日

三月二十七日 第二十回春季英語講習会(五〇人参加 三〇日まで)

三月二十八日 東西礼拝場ふしん事始めお願いづとめ

四月一日 鼓笛講習会(二七〇人参加 四日まで)

四月八日 小鼓研修会(二八人参加)

四月二十九日 笠岡詰所取壊し始まる(五月三日まで)

五月二十五日 第八十三母屋笠岡詰所着工お願いづとめ及び起工式(五五〇人参加)

齋主・本部員・前川正通先生 扨者 田中一之 門脇誠教

五月五日 コロンビアで布教公認

五月二十五日 第八十三母屋笠岡詰所着工お願いづとめ及び起工式

五月二十六日 伯仙分教会三代会長川上道美任命(二代会長川上樽三辞任)

就任奉告祭…六月九日

五月二十六日 西伯分教会恒例祭日変更(毎月五日―九日)

五月二十六日 米美分教会恒例祭日変更(毎月十日―十五日)

五月二十六日 海潮川分教会三代会長高島芳雄任命(二代会長高島一信辞任)

就任奉告祭…六月七日

五月二十六日 弓ヶ濱分教会附属建物増改築

五月二十六日 香地華分教会神床位置変更及神殿増築並内部改造

遷座祭…六月一日

鎮座祭…六月七日

奉告祭…六月八日

六月二十六日 亀田山分教会親神様・教祖・祖霊様お社取替

六月二十六日 陽實分教会神殿及附属建物建築

遷座祭…七月十二日

鎮座祭…十二月十日

奉告祭…十二月十一日

六月二十七日 第一回よふぼくの集いおやさと研修会開催

七月二十六日 こどもおちばがえり第一団出発(高屋 七五三人 二九日まで)

七月二十八日 こどもおちばがえり第二団出発(直轄・久松 六一一人 三〇日まで)

まで)

七月二十九日 こどもおちばがえり第三団出発(神邊 八九三人 八月一日まで)

で)

七月三十日 こどもおちばがえり第四団出発(島根 三一五人 八月一日まで)

八月二日 こどもおちばがえり第五四団出発(福山 九二八人 五日まで)

八月六日 第二十一回夏季英語講習会開催(六〇人 九日まで)

八月二十二日 少年会笠岡団ソフトボール大会挙行(一八〇人参加)

八月二十二日 第二回こかん様に続く会(三八人参加)

九月四日 笠岡市の小丸墓地から大教会境内地に造成した新墓地への移転始まる(二六〇〇平方メートル 九月一六日に移転完了)

九月十日 天理時報社新社屋竣工